

2019年度 事業計画

【海外事業】



キリマンジャロ山で村人たちが守ってきた誇りの森“エデンの森”のシンボルマーク（英語版）。当会は2019年度も、国立公園に取り込まれたこの森を村人たちが守り、利用していく様にするための活動に取り組んでいきます。

概要

2019年度は、2018年度に実現できなかった地域連携協議会の政府登録に最優先して取り組みます。登録は実現できると見込んでいますが、どういう政治力学が働き、最終的に政府がどう判断するかは、結論が出てみないと分からぬというのも事実です。2019年度のその後の動きは、すべてその結果如何にかかっているといえます。

一方、最終的に目指すべき国立公園拡大によるキリマンジャロ山の地域住民に対する人権、生活権の侵害状況の解決は揺るぎないものであり、政府登録の結果によらず、対応策を引き続き探っていくことになります。

2019年度は、2017年に地域連合組織キハコネが解散させられて以来、2年間をかけて取り組んできた地域組織の再生、再結成がかかった正念場の年となります。政府登録がされれば、キリマンジャロ山での地域住民主体による森林保全・管理は新たな局面を迎えることになるでしょう。

これまで植林活動を牽引してきたTEACAとの協力体制や役割分担も大きな課題となってきます。また苗畑の展開も、地域主導となった場合の先々を見据えた体制の改変が必要となってきます。こうした課題への一歩を踏み出していくことになります。

1. 世界遺産キリマンジャロ山における国立公園の拡大にかかわる問題の解決および旧バッファゾーンにおける地域主体による新たな森林保全・管理の実現に向けた取り組み
※(2)～(5)は、新組織の政府登録を前提とします。

(1) 地域連携協議会の政府登録の実現

キリマンジャロ山における地域主体による森林保全・管理を目的とした地域連携協議会の政府登録は、県政府の承認取りつけを完了し、中央政府（法務省）との折衝、登録申請が最後に残されています。法律および手続き面での齟齬をなくし、登録に向けた作業の万全を期すため、中央政府との折衝、手続きは契約法律家を中心に進めます。

(2) 国会議員との協力体制の確立

2018 年度に一旦作業を停止した国会議員とのコンタクトを再開します。キリマンジャロ山における国立公園拡大の問題解決のためには、幅広いセクター、関係者のコミットを得ていく必要があります。問題解決の一つの方法は、国立公園境界を定める国立公園法（付則官庁公示（Government Notices））を改訂することであり、国会議員との連携、協力体制の構築はその要と位置づけられます。

(3) 国会環境委員会、森林庁へのアプローチ再開

両者に対するアプローチも 2018 年度は途中でストップすることとなったため、地域連携協議会の政府登録を待ってコンタクトを再開します。国会環境委員会は、国会でキリマンジャロ山における国立公園拡大の問題を審議の俎上に載せるため、森林庁はバッファゾーンに対する国立公園拡大の法的正当性有無に対する認識一致を図るためです。両者とも 2019 年度中に結果、結論が出ることはなく、地道に協議を重ねていく必要があります。

(4) 他県との協力体制構築

モシ県以外にキリマンジャロ山の属しているロンボ、シーハ、ハイ県の県議会議員と、地域連携協議会を中心とした森林保全・管理体制について協力体制が敷けるかの協議を行う。ただし県境をまたぐ取り組みは慎重を期す必要があります、2019 年度の諸状況をみながら判断をすることとします。

(5) 人権 NGO との連携

政府登録が完了するまで接触を止めていた人権 NGO • Legal and Human Rights Centre (LHRC) に国立公園拡大問題への対方針、地域連携協議会の活動の方向性について助言を求め、連携を図っていきます。

(6) その他（地域連携協議会の政府登録が実現しなかった場合）

地域連携協議会の政府登録が実現しなかった場合、国立公園内での地域住民による植林活動への恒常的許可を実現すべく、中央・地方政府および国立公園公社と交渉を開始します。森林利用が許されない中で植林だけを続けることは、地域住民には負担であり抵抗のあることですが、次に繋げるための突破口を開いていくにはこの方法しかないと考えています。



森林の返還を求めて集まった
村々の代表者たち

2. 植林

(1) 植林

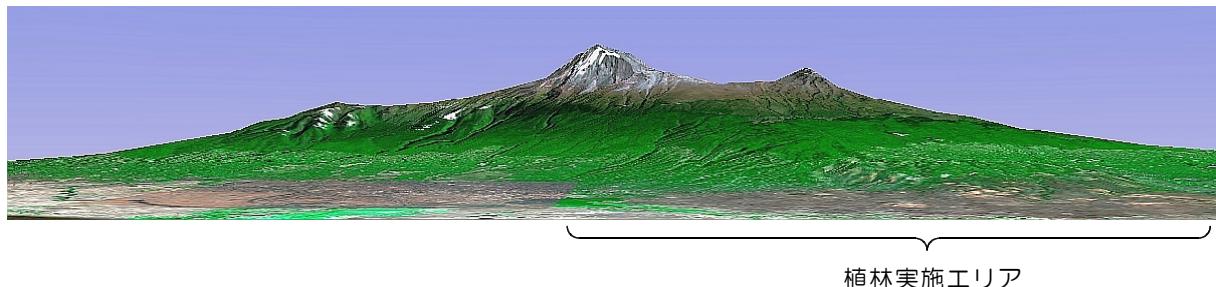
2019 年度もテアカの主導により、山麓にある大型貯水池の堰堤強化を目的とした植林および村落エリアでの植林に取り組みます（植林本数 1 万 5 千本）。キリマンジャロ山における降雨の不安定化が懸念材料で、十分な降雨が得られなかった場合には地域住民への苗木配布に切り替えます。

表1【植林実績】

単位：本

地域	Kirua Vunjo Magharibi	KiruaVunjo Kuaini	Mwika Kaskazini	Kibosho Mashariki	Mamba Kaskazini	Kilema Kaskazini	Uru Kaskazini		
植林	3,320	1,000	1,990	2,250	850	1,600	1,250	2,400	1,000
面積(ha)	2.08	0.63	1.24	1.41	0.53	1.00	0.78	1.50	0.63
合 計 (面積)									15,660 (9.79)

【図1】 キリマンジャロ山植林実施工アリア



(2) 苗畑体制

地域連携協議会の政府登録が実現した場合、テアカと協議会の両者を交え今後の植林実行体制、協業体制について検討を開始します。またキリマンジャロ山での地域主導植林の定着、持続性を考えた場合、苗木の生産、供給体制も現行のテアカによる大規模苗畑体制より小規模分散型の方が適応性が高く、徐々にその方向への転換を図っていきます。多くの実行ノウハウをテアカから協議会に引き継ぐ必要があり、体制転換は数年をかけて進めていくこととします。

2. 養蜂プロジェクト

キリマンジャロ東山麓ロレ村でのハチミツの初収穫を目指します。また養蜂箱の増設はせず、現行の 7 箱での養蜂技術の向上に引き続き取り組みます。そのための養蜂用具の支給、研修を実施します。また今後同村での養蜂プロジェクトを拡大展開していく計画ですが、そのためには養蜂グループの組織強化が必須であり、その方向性を探ります（性急なメンバー増大等は良い結果を生まないため、2019 年度は方向性を探るにとどめます。あるいはメンバーの増員を図るにしても少数にとどめます）。

3. 改良カマド普及

ロレ村を重点普及対象村として、2019 年度も広報効果の大きい世帯 10 戸を選びカマド（セメントプラスタッキングタイプ）の設置を行います。今後のビジョンとして、同村を改良カマド普及による薪炭材削減および森林への負荷削減のモデル村としていきます。そのことにより改良カマドの広報効果及び評価を高め、キリマンジャロ山麓での普及スピードを大幅に高めることを狙います。また 2019 年度から、設置にあたってコストシェアリングを導入します。

4. 裁縫教室

国家試験で良い成績をおさめられなかった生徒が 2019 年度の試験に再チャレンジできるよう、再就学のための学費支援を行います。また現在の裁縫教室は通学を前提としたディスクールの運営形態をとっていますが、これをキリマンジャロ州以外からも広く生徒を受け入れられるよう、寄宿舎を併設したボーディングスクールに改めていくことにしています。このため 2020 年度には寄宿舎の建設支援を行う予定であり、2019 年度はそのための具体的建設プランの立案を行います。

5. 図書・文具支援

ロレ村の幼稚園に対し、引き続き全園児への文具（ノート、ボールペン、鉛筆）の支給を行います。また同村で教会が中心となって取り組まれている孤児支援について、強い協力要請が出された場合、その支援を行うこととします。

6. 診療所支援

テマ村に建設した診療所で最後に残っている浸透層の設置と架線工事（電線引き込み）のうち、浸透層の設置を完了させます。その後診療所の政府登録および県による医師派遣の確実な実行をフォローします。政府登録、医師派遣が完了した場合、テアカと協議のうえ診療所に必要となる機材もしくは薬剤への支援を実施します。ただし、これらを実現した場合も電線引き込みが完了できないまま残っており、診療所の運営に問題がないか、政府からクレームがつくことがないかについて、テマ村およびテアカと協議し見極めを行うこととします。

7. 伝統水路復旧支援

多くの伝統水路が放棄されていく中で、現在も高い稼働率を誇るテマ村のムレマ水路の補修を支援します。これまで伝統水路の復旧支援はテアカを通して実施していましたが、ムレマ水路は水路委員会を通して実行します。直接支援は初めてのことであり、大規模な支援は行わず、毎年小規模な補修を重ねていく方法で進めていくことにします。



土砂崩れで埋まってしまったムレマ水路

【国内事業】

1. ニュースレター

ページ削減版で年4回の発行を引き続き目指します。また年1回、タンザニアの現場から直近の取り組み状況をお知らせするハガキ通信を継続します。

2. イベント出展

- ・毎年10月に開催される「グローバルフェスタ」に出展し、キリマンジャロ山での国立公園拡大に伴う問題およびそれに対する当会、地域住民の取り組みの最新状況について展示、説明を行います。
- ・事務所の移転に伴い、従来出展してきた「さくら祭り」のような地域の方に親しまれているイベントへの出展機会がなくなったことから、同様の地域イベント（つづじヶ丘／調布）を探し出展を目指します。

3. ぼれぼれカフェ

当会の活動に気軽に触れ、参加の機会としていただくため開催している茶話会形式の「ぼれぼれカフェ」を2019年度も継続開催します（3～4回）。アフリカやタンザニア、当会の活動に関わりのあることをテーマにするほか、2019年度は「～キリマンジャロの村人と話そう！～ぼれぼれスワヒリ・カフェ」の開催を計画します。

4. ホームページのリニューアル

現行のホームページを、「シンプル」、「分かりやすい」をコンセプトにした新ホームページに全面改定を行います。

5. パンフレット改訂

現在のパンフレットの在庫がなくなることから、内容を改訂した新パンフレットを作成（1万部）します。

6. その他

現地調査のタイミングに合わせ、1泊2日～2泊3日の内容で、キリマンジャロ山の農村見学やプロジェクト見学ができる受け入れプログラム（現地集合、現地解散）について検討します。タンザニア訪問を予定されている旅行者がオプションとして選択できるようなスタイルを基本コンセプトとし、なかなか触れることのできないアフリカの人々の素顔や生活に触れ、彼らと協力している当会の活動を現場で直接見ていただける機会を作っていくものです。



キリマンジャロ山に蒸らす村人たちのホームガーデンを縫うように進む村の小道（テマ村）



タンザニア・ポレポレクラブ

(事務所) 〒182-0005 東京都調布市東つつじヶ丘2-39-11 アザレアヒルズ203
(Tel/Fax) 03-3300-7234、(郵便振込口座) 00150-7-77254
(E-mail) pole2club@gmail.com、(HP) <http://polepoleclub.jp/>
(本部) 〒107-0062 東京都港区南青山6-1-32-103